



外国人散在地域での取り組み

京丹後市国際交流協会事務局長 多文化共生マネージャー 麻田 友子

京丹後市は京都府の北部に位置し、人口約5万6,000人、面積約500km²、京都市から電車で2時間半という山と海に囲まれたまちである。京丹後市国際交流協会は、旧6町が2004年に合併したのち、2007年度に設立。今年度10周年を迎えたまだ経験の浅い協会である。

私が2012年度の多文化共生マネージャー養成コース(タブマネ養成)を受講した頃の外国人市民は約360人で、2009年から日本語教室を立ち上げてはいたが、まだまだ地域で多文化共生の機運はみられない状態で、本市でどのように取り組みを進めていくかと思いを巡らせていた。

このタブマネ養成のあと、同年(公財)京都府国際センターと共催で「多文化共生セミナー」を開催した。「多文化共生=外国人支援」ととらえられがちなため、本市のような外国人市民数が少ないまちでは、これからの地域づくりは「支援」ではなく「共に作る」という考え方のもと、研修のテーマは「多様性を活力に変える～外国人住民の社会参画～」とした。

この研修会で協会関係者や市担当課の理解を得ることができ、協会規約に「多文化共生社会の実現に向けた取り組みの推進」を事業目的として追加し、本格的に取り組みをスタートした。

毎月発行される市広報紙には、市内で活躍する外国人を紹介するコーナーを1年間(12回)掲載し紹介した。



多市連携訓練の様子

この連載をきっかけに、公民館事業や各団体において国際理解に向けた事業を盛んに実施してもらうなど、外国人市民の活躍の場を広げていく足掛かりができた。

2014年度には、「京丹後市多文化共生推進プラン」が策定されることとなり、協会は外国人市民の状況把握(アンケートと聞き取り)や多文化共生に関する国の動きなどを担当し、市と協会の両輪で作業を進めた。

同じころに本市に米陸軍のレーダー基地が配備され、米軍関係者約160人の暮らしも始まった。外国人市民も在留資格などに関係なく、地域の一員として活躍してもらうなど“ちがいを認め合い、ともに豊かに暮らせるまち”を目指したプランが完成した。

2015年に、災害時の備えと多文化共生事業などを日頃から相互に連携協力していくことを目的とし、「多市広域パートナーシップ協定」を(公財)西宮市国際交流協会、NPO安芸高田市国際交流協会と締結した。また、2016年には京丹後市と「災害時における外国人支援に関する協定」を締結した。

外国人市民の多い、少ないに関わらず、自治体と地域国際化協会がそれぞれの立場で取り組むべきことを理解、支援し、両輪となって進めていくことが、多文化共生のまちづくりを進めるには必要なことと考える。

プロフィール

麻田 友子(あさだ ともこ)

兵庫県豊岡市生まれ。2008年11月に京丹後市国際交流協会の事務局長に就任し、協会での日本語教室の立ち上げなどに携わり2014年4月から現職。2012年6月にクリアから多文化共生マネージャーの認定を受け、2014年の京丹後市の多文化共生推進プランの策定や2016年の熊本地震において(一財)熊本市国際交流振興事業団の多言語支援センターの運営に参加した。2015年から全国市町村国際文化研修所(JIAM)主催の多文化共生マネージャー養成コースの講師、2016年から京都府外国籍市民共生施策懇談会委員を務めている。